



遠くで汽笛を 聞きながら

文芸などのエンターテインメントの世界にも秋田の鉄道駅はしばしば登場する。

松本清張の推理小説『砂の器』には、東京で起こった事件の手掛かりを求めてJR羽越線の羽後亀田駅に降り立つ刑事の姿が描かれている。

元AKBの岩佐美咲の歌う演歌『無人駅』のミュージックビデオは、秋田内陸線の奥阿仁駅で撮られた。(YouTubeで見られる)

また、公式にはアナウンスされていないが、大ヒットしたアニメ映画『君の名は。』に登場する無人駅のシーンが同じく内陸線の前田南駅がモデルに違いないとマニアの間でささやかかれ、聖地巡礼のファンが全国から訪れたのも記憶に新しい。

JR奥羽線の横手駅と湯沢駅の中間にある醍醐駅は、田園地帯に真っすぐに延びた線路と、ホームが1面あるだけの無人駅。
フォークグループ・アリスが

1976(昭和51)年にリリースした名曲『遠くで汽笛を聞きながら』のレコードジャケットには、冬の夕暮れの醍醐駅を撮った写真が使われている。電化前の架線の張られてない時代に撮られたその写真は、歌詞に漂う切ないイメージにピッタリだ。

ところで、この「醍醐」という由緒を感じさせる駅名(地名)だが、菅江真澄の著した『雪の出羽路』では、旧醍醐村(現在は横手市平鹿町醍醐)の村名について、「塔甲(読みは、とうこうか)という地名が変遷して、だいが」というのであろうかと推察している。それが、いにしえの時代の牛乳を精製して得られる最上級の美味な飲み物(現代で言えば、飲むヨーグルト)を意味し、仏教用語でもある「醍醐」の字があてられたのであろう。

今は特急も急行も貨物列車も走らず列車交換もなく、ごく短い編成の各駅停車が行き来するだけの醍醐駅だが、なぜか7両編成が収容できる長いホームを持つ。かつてそんな長いホームの必要な時代があったのか、興味は尽きない。